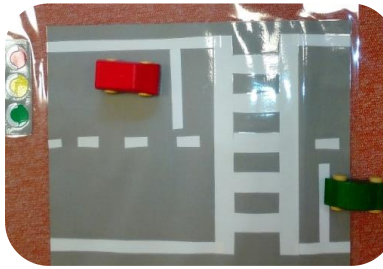




保育室便り 9月号



日中は過ごしやすくなり、お散歩に出かける機会が増えました。お散歩コースの舞鶴公園ではお堀に鯉だけでなくカモも戻って来ました。蝉の音も元気がなくなってきた様子で秋の始まりを感じます。お部屋では新しく赤ちゃんのお友達も増え、にぎやかになってきました。大きなお友達も赤ちゃんに玩具をもってきてくれたり、足の大きさを合わせて測ってみたりと、可愛くて仕方がない様子が見られました。

今月は交通全般を中心に年齢にあった遊びをしました。交通の始まりは「止まる」「進む」などの簡単な経験から始まります。実生活の中では外に出ると多くの情報が耳や目から飛び込んできますが、遊びの中で整理すると、経験と言葉が一致します。大好きな汽車ごっこでの何気ない「出発進行」も進むですし、「到着」も止まることに繋がります。子どもたちが汽車になって「汽車ポッポ」を歌いながら進む時など経験と言葉の一致が楽しい瞬間です。保育者が遮断機になり「カンカンカン止まりまーす」と声をかけるだけで簡単な楽しいルールのある遊びが始まり子どもたちは汗が出るほど楽しみ、「止まる」「進む」を覚えます。

三歳ごろになると「右を見て、左を見て」などの安全確認も遊びの中で楽しみました。

9月の絵本

「パパ、お月さまとって！」

エリック=カール 作 偕成社

娘のとんでもない願いをお父さんが叶えてあげるお話です。算数の始まりがちりばめられています。

「14ひきのおつきみ」

いわむらかずお 作 童心社

秋の深まりや月の美しさが絵のきれいな一冊です。

「つきみだんご と まほうのぼうし」

山本和子 作 教育劇画

お月見の由来を、まだカレンダーがない時代に、お月さまを見ながら季節の変化を感じていたことを題材にした読み物を紙芝居でわかりやすく教えてくれています。

10月の遊び

室内では・・・大きさを比べる遊びを楽しみます

ベランダでは・・・シャボン玉を大きく膨らます楽しみも経験します。プランターの準備(土に触れます)

製作では・・・粘土で形が変化する楽しさを感じたいと思います。

意識したい行事(お月見)

昔は7月から9月までが秋とされおり、真ん中に当たる8月は中秋と呼ばれていました。

15日の満月は中秋の名月と言われ、収穫を祝ってお供えをし、月見をする風習がありました。

秋の収穫と重なり「お月見」の行事には収穫祭の意味も込められています。現在では9月後半から

10月初めごろに当たります、今年は10月4日です。お子さんとゆっくり眺めてみてはいかがでしょうか。